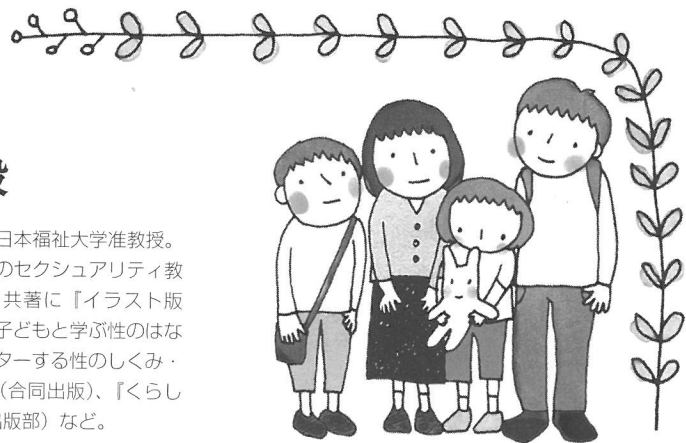


ゼロが学ぶ若者のセクシュアリティ

障害のある子ども



日本福祉大学
伊藤修毅

いとう なおき / 日本福祉大学准教授。
専門は障害児・者のセクシュアリティ教育、
青年期教育。共著に『イラスト版発達に遅れのある子どもと学ぶ性のはなし-子どもとマスターする性のしくみ・いのちの大切さ』(合同出版)、『くらしの手帳』(全研出版部)など。

第2回 セクシュアリティの多様性

障害者権利条約第24条には、「障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習」の目的の一番目に「人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の多様性の尊重を強化すること」とあります。今回は、この「人間の多様性の尊重を強化すること」について、セクシュアリティの面から考えていきます。

「LGBTからSOGIへ」

近年、「LGBT」という言葉を頻繁に耳にします。レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をつなげたものです。しかし、多様なセクシュアリティは、この4種類だけではなく、Q(クエッションング)、I(インターセックス)、A(アセクシュアル)などを加えたり、LGBTSとしたりして、多様なセクシュアリティを示すこともあります。

これらは、セクシュアリティの典型例のいくつかに名前をつけたものです。名前があることで理解しやすくなる面もありますが、自分のセクシュアリティを受



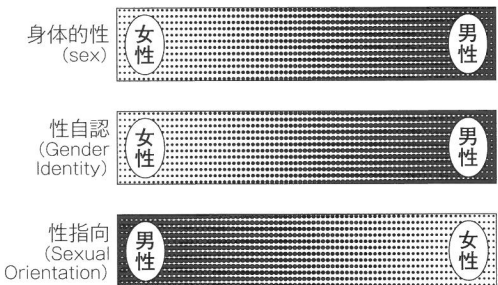
け止めやすくなる場合もありますので、それぞれの名前の意味は、後で可能な範囲で説明します。その前に「LGBT」に代わる言葉として、「SOGI」という言葉を確認しましょう。

性指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) の頭文字をつなげた言葉で、「SOGIに関する差別の禁止」という文脈で使われることが多くなっています。セクシュアリティの要素の重要な部分である性指向や性自認などで、差別をしてはいけないという思いが込められた言葉と理解しています。

セクシュアリティの3つの要素

図1は、性指向・性自認と身体的性 (sex) の3つをセクシュアリティの要素とし、それぞれグラデーションがあることを示したものです。要素はさらに細かく分けることもあります。3つに絞りました。ここで重要なのは、各要素は独立しているということです。つまり、身体的性が決まったら性自認が決まったり、性自認が決まったら性指向が決まったりするものではないということです。

図1 セクシュアリティの要素とグラデーション



身体的性の多様性

身体的性も、必ず男女が明確なわけはありません。「性分化疾患 (DSDs: Disorders of Sex Development)」といひ、内性器・外性器・性染色体といった身体的性を決める部分が非典型の人もあります。性分化疾患にあたる疾患は60種類以上もあり、その現れ方も多様です。

漫画『性別がない!』の著者で性分化疾患当事者の新井祥さんは、漫画の内容から、「中間の性」を自認していると推察されます。しかし、身体的性と性自

性自認の多様性

認は独立しているため、性分化疾患の人がすべて「中間の性」という自認をもつとは限りません。むしろ、性自認は明確に、男性または女性であるという方が多く、グラデーションに位置付けられることは本意ではないそうです。第一に尊重されるべきは、「性自認」であることを確認しておきましょう。

なお、「性分化疾患」は、「半陰陽」「インターセックス(間性)」と言われることもあります。これらの言葉は、蔑視的なニュアンスで扱われることが増え、忌避されるようになっていきます。

身体的性と性自認は独立しているためさまざまな組み合わせがあります。身体的性と性自認が一致する組み合わせを「シスジェンダー」、一致しない組み合わせを「トランスジェンダー」と言います。

性自認も、男女が明確とは限りません。「クエッションング(性自認が不明)」「Xジェンダー(男女どちらでもない性という自認)」という人もいます。

トイレや更衣室など、「男性用」と「女性用」しか用意されていない学校や社会